

空を見上げて 作詩：大脇 三彩野 (23 才)

ある日私は青い大きな空を見上げ思った
白い雲が食べてみたい
私はふと考えはじめた
雲に味があったらいいな
ソーダ味
ハワイアンブルー味
ぶどう味
いろんな味があったら美味しそうだよ

ある日私は青い大きな空を見上げ思った
雲の上に乗って運動会をしてみたい
飛んだり思い切り走ったりしてみたい
雲でだるま作ってみたい
雲の上にベッドがあればふかふか気持ちいいね

ある日私は思った夕暮れの空見上げて
雲の音が聞こえた
さよならではなくまた明日
また見上げたら違う事を思うだろう

ある日私は思った夕暮れの空見上げて
雲の音が聞こえた
また空見上げ楽しければいい
ある日私は思った夕暮れの空見上げて
雲の音が聞こえた
さよならではなくまた明日

✿作詩者の思い✿

ある日車の中から空をみあげて
雲の形がおもしろかったの
その気持ちを詩にしました

命 作詩：那須 岳斗 (27 才)

命は、人と人のリレー
人のつなぐ絆
固い絆で結ばれている
人からのバトン
人の意思で生きてる
命があるから人生がある
命があるからこそ生きるってことなんだ

命があるから苦難も乗り越えられる
命を燃やして人を守れ
人の命は 一つ
だけど、人の進む道も一本じゃない
自分の生きてる時間を大切にすることが大事
それこそが、命ということだ

✿作詩者の思い✿

少しずつ病気が進行していている僕
生きるという事が大事で、その命を大切にしてい
きたいと思い、この詞を作りました

一つ一つできなくなっても 作詩：奈須 可南子 (41 才)

一つ一つできなくなってる
おばあちゃん
だけど
まだ
自分でもしようとする
そんな姿に感動して
私は
そっと心で応援したくなった

一つ一つできなくなってきたけど
一歩
一日をがんばっている
おばあちゃん
日によって
調子はちがうけれど
その
笑顔
挑戦
やる気を
大切にみとどけたい
大切に生きてほしい

✿作詩者の思い✿

一つ一つできなくても、自分の 95 歳になるおばあ
ちゃんのがんばる姿をみてこの詩を書きました

追憶 作詩：松山 律子（68才）

私が貴女と出逢ったのは舞台の上だった
ここは私が立つ場所じゃない 早く帰りたい
周りの雰囲気のリハーサルから心臓バクバク
そんな私の耳元で貴女がソ〜と囁いた
お客さんも人間私達も人間 気にしない気にしない
あれから何年たったのかなあ
あの時の貴女の笑顔
今でも私の心の中で輝いています

私が貴女の詩（うた）を聴いたのは舞台の上だった
なんて素敵な夢のある詩だろう私には書けない
貴女の詩に感動して リハーサルから自信喪失
そんな私の耳元で 貴女がソ〜と囁いた
何時の日か私を越えるはず だから自信をもって
あれから何年たったのかなあ
あの時の貴女の優しさ
今でも私の心の中で輝いています

私が貴女の訃報を知ったのは 6月だった
まさかね そんなこと 同姓同名だよ きっと
涙がこぼれ落ちないように 空を見上げた
梅雨空に綺麗な虹 虹の向こうから貴女の声
泣かない泣かない 私はここに居るよ
どれほど時間が経っても
貴女の事を思うと
今でも心の中は涙で一杯になります

貴女の笑顔も貴女の優しさも 貴女の生き方そのもの
貴女の生き方は決して真似出来ないけれど
私は私の生き方をしよう
貴女に貰った沢山の勇気と沢山の感動を力に変えて

心に咲く花 作詩：湯治 輝美（59才）

花を見ていると心がいやされる
小さなつぼみが大きくふくらんで
私達に元気をあたえてくれる花
花って人の心まで明るくてらしてくれる
不思議な力をもっている
みんなの心を明るく元気にしてくれる
心に咲く花

人は1人では生きてゆけない
いつもだれかにたすけられたり
はげまされたりして生きている
私達は悲しい時うれしい時も
この花のように明るい気持ちでいたい
1人でも多くの人の心に咲く花

❖作詩者の思い❖

花を見ていると心がいやされる
つらいことや悲しいことがあった時、花を見ている
と元気がでてきます
人を元気にしてくれる心に咲く花を思い書きました

❖作詩者の思い❖

（故）納さんの訃報を新聞で知ったとき「まさか同姓同名だよ」と信じられませんでした。市民文化ホールの楽屋で何度かご一緒させていただいて、楽しいおしゃべりも沢山しました。あの優しい笑顔を思い出しながら、この詩を作りました。詩の中身より題名に1番悩みました。「追憶」にしたのは、私が納さんの事を忘れないように…と誰かの心の中で納さんが生き続けてほしいとの願いを込めました。

当たり前 作詩：松山 敬（45才）

優しく見守ってくれる家族
支えてくれる沢山の友達
僕のかげがえのない仲間たち
会いたいときに会える
話したいときに話せる
悩みがあってもいつでも聞いてもらえる
そんな当たりの前かが
目に見えぬ何かに脅されて
当たり前じゃなくなったとき
初めて気づく
毎日の当たり前が大きなキセキだったんだってことに

優しく見守ってくれる家族
支えてくれる沢山の友達
僕のかげがえのない仲間たち
また前のように会える
また前のように話せる
また前のように悩みがあったら
いつでも聞いてあげられる
こんな当たりの前かが
目に見えぬ何かを乗り越えて
当たり前が戻ってきたとき
初めて気づく
毎日の当たり前が大きな幸せだったんだってことに

みんなに助けられていることに感謝して前に進んでいきたい
思いやりの気持ちを忘れずに

❖作詩者の思い❖

当たりの前かができてきた日々がどれだけ大切に
幸せということをあらためて痛感した気持ちを
詩にしてみました